

垂直離着陸輸送機CV-22オスプレイの飛来に対する意見書

本年、3月22日米軍横田基地に配備されている垂直離着陸輸送機CV-22オスプレイ3機が、米軍嘉手納基地に飛来した。沖縄防衛局によると飛来の目的については、特殊戦術隊員とともに海上での隊員回収訓練、MC-130Jとともに戦術的空中給油訓練を実施する予定とのこと。コロナ禍における様々な懸念がある中で、滞在期間・兵員等、具体的な詳細は明らかにされておらず看過できない。

米空軍安全センターがまとめた2019年米会計年度の空軍機事故統計によると、CV-22オスプレイの10万飛行時間当たりの事故率は、死者発生又は損害額200万ドル（約2億2千500万円）以上である最も深刻な「クラスA」が6.22件。一部永久的な障害が残るけが人が発生、損害額50万から200万ドル（約5千625万円から2億2千500万円）未満である「クラスB」は、40.42件とのこと。

同型機の配備候補に嘉手納基地が浮上した2013年には、沖縄市、嘉手納町、北谷町で組織する「嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会（三連協）」では、撤回を求める住民大会も開催され、抗議の訴えをしたにも関わらず、配備計画を前提に爆音を鳴り響かせながら降下訓練が行われ続けられている。

さらに、昨年、2月9日の新聞報道においても嘉手納基地を拠点にする米空軍353特殊作戦群は、「嘉手納基地で定期的に訓練を実施し、今後の運用の詳細は説明しない」と明言したことは、断じて許されるものではない。

よって、本町議会は、町民の生命、財産、安全を守る立場から、米軍及び関係当局に対し厳重に抗議するとともに、下記事項を速やかに実現するよう強く要請する。

記

- 1 垂直離着陸輸送機CV-22オスプレイの定期的訓練を禁止し、配備計画を撤回させること。
- 2 軍用外来機飛来・暫定配備を中止し即時撤去させること。
- 3 嘉手納基地の負担軽減を速やかに実施し、機能移転・訓練移転を図らせること。
- 4 騒音防止協定を遵守し、嘉手納基地の騒音軽減を確実に実施させること。
- 5 日米地位協定を抜本的に改定すること。
- 6 全ての在沖米軍基地を整理縮小・撤去させること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和3年4月16日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣
沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使（沖縄担当） 沖縄防衛局長